スージャヌ®配合錠を服用される患者さんとそのご家族へ



スージャヌ® 配合錠の服用にあたり、患者さんご自身にご注意いただきたいことがあります。服用を始める前に、必ず本冊子をよく読み、正しく服用してください。

監修 門脇 孝先生　国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 院長
（ご所属・役職名等は2023年6月時点のものです）

スージャヌ®配合錠はどんなお薬?

スージャヌ®配合錠は、DPP-4阻害薬ジャヌビア®錠（シタグリプチン）と、SGLT2阻害薬スーグラ®錠（イプラグリフロジン）の2つの血糖値を下げる成分を1錠に含有した2型糖尿病の治療薬です※。

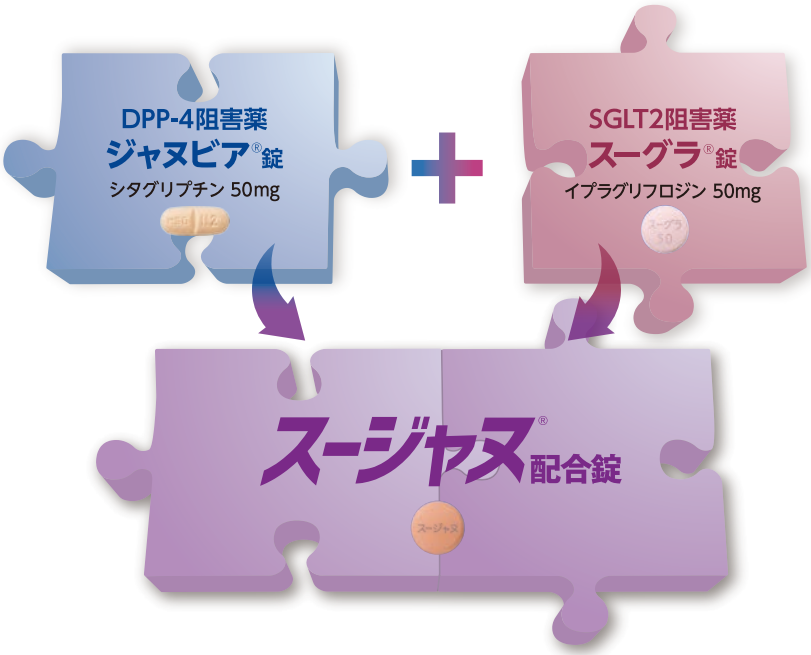
※ 1型糖尿病患者さんはこのお薬を服用しないようにご注意ください。

DPP-4阻害薬

DPP-4*という酵素の働きを阻害し、食事による血糖上昇に応じて小腸から分泌されるインクレチン*の分解を抑えることにより血糖値を下げます。

SGLT2阻害薬

腎臓で糖を体内に戻すSGLT2*の働きを抑え、過剰な糖を尿中に排泄させ血糖値を下げます。



*インクレチン…食事をとると小腸から分泌されるホルモンで、膵臓に働きかけてインスリン（膵臓から分泌される血糖値を下げるホルモン）の分泌を促します。
*DPP-4…インクレチンを分解する働きをもつ酵素です。
*SGLT2…腎臓で尿に含まれる糖を栄養分として体内に戻す（糖の再吸収）役割を担っているたんぱく質です。

スージャヌ®配合錠の服用方法

スージャヌ®配合錠は、1日1回、朝食前または朝食後に飲んでください。

血糖値のコントロールがよくなっても、決して自分の判断で服用を中止したり、量を変えたりしないでください。

飲み忘れた場合は?

- その日は飲まずに、翌日の朝に1回分を飲む。

⚠決して2回分を1回で飲まない。

誤って多く飲んだ場合は?

- 低血糖症状に注意する。

⚠医師または薬剤師に相談し、指示に従う。

シックデイの場合は?

- 脱水にならないよう、水分を十分とる。
- 無理せず安静にする。
- 服用をいったん中止し、医師に相談する。



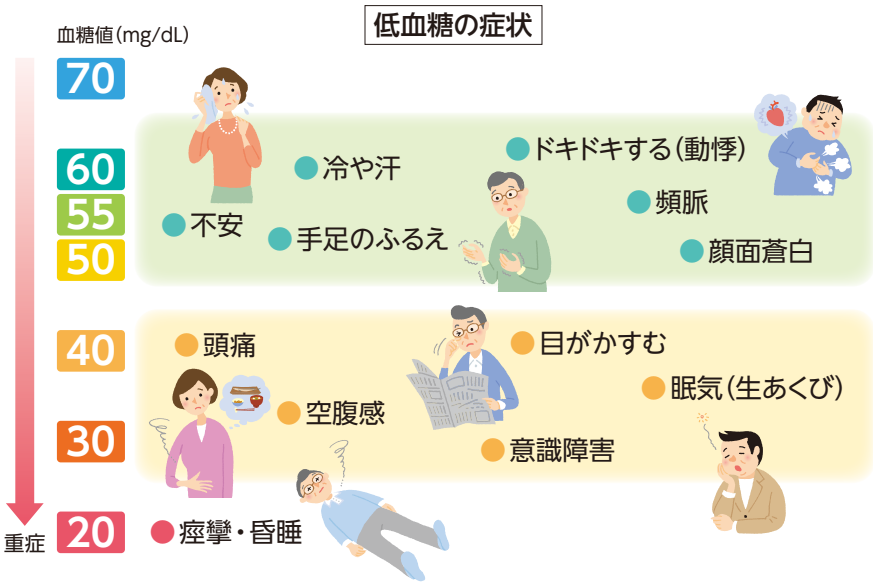
シックデイとは
- 発熱・下痢・嘔吐など病気になった日
- 食欲がなく食事が十分とれないような場合

次のようなときは、すぐに医師に連絡・受診しましょう

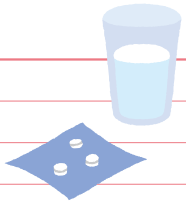
- 全身の倦怠感、下痢、吐き気・嘔吐、腹痛などの症状が続く
- 食事や水分をほとんどとれない
- 高熱がある(39度以上もしくは38度以上が2日以上続く)
- 著しい高血糖(350mg/dL以上)

❶ 低血糖

- 他の糖尿病治療のお薬と同様に低血糖を引き起こすことがあります。
- 特にインスリン注射やスルホニルウレア薬、速効型インスリン分泌促進薬、GLP-1受容体作動薬など、他の糖尿病治療のお薬を併用している方はご注意ください。
- 低血糖の症状があらわれたら、すぐに糖分を摂取するようにしてください。



低血糖になりやすい状況



- お薬を多く飲みすぎたとき
- お薬を飲むタイミングを間違えたとき
- お薬の種類や組みあわせを間違えたとき
- 食事を抜いたり、時間がずれたり、量が少なかったとき
- 激しい運動をしたとき
- 大量のアルコールを飲んだとき
- 病気や怪我による食欲不振、嘔吐など、通常の食事がとれないとき

低血糖かな?と思ったらすぐに糖分を摂取してください



ブドウ糖
5〜10g



砂糖
10〜20g



ジュース*
150〜250mL



あめ*

*ジュースやあめは、砂糖かブドウ糖を含むものでなければ効果がありません。人工甘味料を含む食品・飲料は効果がないのでご注意ください。

- α-グルコシダーゼ阻害薬も一緒に服用しているときは、必ずブドウ糖を摂取してください。
- 糖分をとっても回復しない場合は、すぐに医師に相談してください。
- 低血糖症状を起こした場合は、診察時に必ず主治医に報告してください。
- ご家族や周囲の人に、低血糖症状が起きた場合の対処法について知らせておきましょう。

低血糖を起こさないための注意点

- お薬の飲み方は必ず医師または薬剤師の指示を守ってください。
- お薬を多く飲みすぎたり、飲むタイミングや種類・飲みあわせの間違いがないよう正しく飲みましょう。

② 脱水症状

- 脱水の症状があらわれた場合は、水分補給を行い、医師に相談してください。
- 特に高齢（65歳以上）の方、利尿薬（血圧を下げるお薬）を飲んでいる方、汗をかいて水分を失いやすい夏場はご注意ください。

こんなときは脱水症状かもしれません



- トイレの回数が多い
- 尿の量が多い



- のどの渇き
- 口の渇き



- めまい
- ふらつき

- お薬の飲み始めに急激に体重が減少する
  （体内の水分が急激に減少している可能性があります）

脱水症状を起こしやすい方

- 高齢者
- 腎機能が低下している
- 利尿薬（血圧を下げるお薬）を服用している
- 血糖値が非常に高い（血糖コントロールが非常に悪い）

脱水症状を起こさないための注意点

- 特にお薬の飲み始めの時期は水分を多めにとり、その後もお薬の服用中は水分を多めにとるように心がける
- 夏場はこまめに水分をとる

❸ ケトアシドーシス

- このお薬の作用により、体内のケトン体*が増えることがあります。ケトン体が増えすぎると、より重大なケトアシドーシスと呼ばれる状態になる場合があります。また、高血糖がみられないケトアシドーシスがあることにも注意が必要です。

＊ケトン体：インスリンの欠乏などにより脂肪の分解が促進されたときに体内で増える酸性の物質

- ケトアシドーシスの初期症状※1と考えられる症状がみられた場合は、血糖値が正常に近くてもすぐに医師に相談して血中または尿中ケトン体を測定してもらってください（正確な診断には血中ケトン体の測定が必要です）。
- ケトアシドーシスになりやすい方※2は、特にご注意ください。

※1 ケトアシドーシスの初期症状

● 吐き気・嘔吐	● 体の疲労感
● 食欲減退	● 呼吸困難
● 腹痛	● 意識がもうろうとする
● 異常な口の渇き	など



※2 ケトアシドーシスになりやすい方

- インスリンポンプを使用している方で、インスリンポンプに不具合が生じた
- インスリンの分泌が少ないといわれた
- インスリン注射を減量した/中止した
- 厳しい糖質制限を行っている
- 体調不良などで食事が十分にとれない状態が続いている
- 感染症にかかっている（発熱、下痢、せきなどの症状がある）（8ページ参照）
- 脱水を起こしている（6ページ参照）
- 激しい運動をした
- アルコールを多飲している

ケトアシドーシスを起こさないための注意点

- 過度の糖質制限はしない
- 体調不良で食事がとれない場合は服用をいったん中止し、医師に相談する
- 脱水に注意する

④ 尿路感染症、性器感染症

- このお薬の作用により、膀胱炎などの尿路感染症や、陰部のかゆみや炎症などの性器感染症が起きることがあります。尿路感染や性器感染を起こし、腎盂腎炎※1、外陰部および会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)※2、敗血症※3などの重篤な感染症に至ることがあります。
- 尿や体に異常を感じたら、すぐに医師に相談してください。
- 毎日、お風呂に入る、下着を交換するなど、体を清潔に保つようにしてください。



尿路感染症の主な症状

● 残尿感	● 排尿時の痛み
● 寒気、ふるえ、発熱	● わき腹や腰などの痛み　など

性器感染症の主な症状

男性	
● 陰部のかゆみ	
● 陰部のあかみ	
● 陰部の違和感　など	

女性	
● 陰部のかゆみ	● 陰部の違和感
● 陰部のあかみ	● おりものの色の異常　など

重症化すると腎盂腎炎、外陰部および会陰部の壊死性筋膜炎(フルニエ壊疽)、敗血症などの、より重大な疾患に至ることがあるので、このような症状があらわれたらすぐ医師に相談してください。

尿路感染症、性器感染症を起こさないための注意点

- 陰部を清潔に保つ
- トイレ(排尿)をがまんしない
- 女性はビデを使いすぎない

※1 腎盂腎炎(じんうじんえん):腎臓の感染症で、尿路感染から腎臓に細菌が広がって引き起こされることがあります。
※2 フルニエ壊疽:細菌感染が陰部や肛門周囲に急速に広がって、壊死を引き起こすことがあります。
※3 敗血症:感染症が全身に広がって、肺や腎臓・肝臓などの臓器不全やショック(血圧の低下)を引き起こすことがあります。

⑤ その他の注意点

皮膚症状

発疹やじんましんがみられることがあります。皮膚に何か異常を感じた際には、医師に相談してください。

体重減少

体重の減少（2kg前後）がみられることがあります。過度の体重減少がみられた場合は、医師に相談してください。

尿糖や1,5 - AG※の検査

- 服用中は尿糖検査の結果が「陽性」となります。
- 1,5-AGの検査は、尿糖の影響を受けて値が変動します。
  服用中は尿糖や1,5-AG検査で糖尿病の状態を評価することはできません。

※1,5-AG（1,5-アンヒドログルシトール）は、過去数日～1週間の短期間の血糖変動をとらえる指標です。

糖尿病治療の基本は食事・運動療法です。スージャヌ®配合錠の特徴をよくご理解いただき、必ず食事・運動療法を継続しながら、主治医の指示通りに服用してください。

運動を制限しなければならない場合もありますので、運動をしてもよいか必ず主治医に相談してください。

食事療法のポイント

- 栄養バランスのよい食事を心がける
- 食物繊維が多い野菜、海藻、きのこ、豆類などを食べる
- 朝昼夜の1日3食規則正しく
- よく噛む
- 量は腹八分目に
- お菓子やジュースなどの嗜好品は控える



運動療法のポイント

- ややきついと感じる程度の運動
- ウォーキング、ジョギング、水泳などの有酸素運動を20～60分程度、週3～5回
- スクワット、腕立て伏せ、ダンベルなどのレジスタンス運動を、週2～3回（1セット10～15回から始めて、徐々にセット数を増やす）
- 食後1時間頃に行うと効果的
- 運動の前後には準備運動と整理運動を行う



Memo

MSD製薬
INVENTING FOR LIFE

astellas
アステラス製薬株式会社

Kotobuki Pharma

スージャヌ® 配合錠の服用にあたり
気になることやわからないことがあったら、
すぐに医師、薬剤師にご相談ください。



病医院名

MSD糖尿病ポータル

糖尿病の原因や検査、
治療法をご紹介しています。
http://dminfo.jp/

2023年6月作成
SJN23PA0029

（2023年6月作成）TA-WL
SJN95001A03